



佐渡を世界遺産に

世界遺産登録に向けて

号外

「佐渡島の金山」



佐渡を世界遺産に

目指せ!世界遺産登録!!「佐渡島の金山」



祝 ユネスコ世界遺産へ 推薦決定!

令和4年2月1日、「佐渡島の金山」がユネスコ世界遺産へ推薦されました。これまでの間、登録活動にご協力いただいた市民の皆さま、関係者の皆さまには心より御礼を申し上げます。

昨年末の12月28日には、文化審議会世界文化遺産部会から、「佐渡島の金山」が世界遺産にふさわしい価値がある評価をいただきました。その後、1月28日の政府表明、2月1日の閣議を経て、ユネスコへ推薦されたものです。

これにより、佐渡市は世界遺産登録に向けて大きく歩みを進めることになりました。引き続き、皆さまのご協力を願っています。

世界遺産登録までのスケジュール(予定)

- | | |
|----------------|------------------|
| 2022年(令和4年)秋ごろ | イコモス現地調査 |
| 2023年(令和5年)夏ごろ | イコモス勧告 |
| 2023年(令和5年)夏ごろ | ユネスコ世界遺産登録決定!!!! |

佐渡金銀山の保存・活用のためのご支援をお願いします!

世界に誇る貴重な文化遺産である佐渡金銀山を守り、伝え、活かすために「世界遺産推進基金」を設けています。佐渡の宝を未来へつなぐため、ご理解とご支援をお願いします。

ふるさと納税でも応援できます!

佐渡ふるさと島づくり寄付金(ふるさと納税)「佐渡金銀山の世界遺産登録応援コース」でも受け付けています。

お問い合わせ 世界遺産推進課 ☎63-5136



「佐渡島の金山」 構成資産のご紹介



相川鶴子金銀山(相川金銀山)



相川鶴子金銀山 (鶴子銀山)

撮影：西山 芳一



西三川砂金山

平安時代から砂金の採取が行われ、中世の頃から開発が進んだとされている西三川砂金山は、真野地区笹川集落とその周辺にあります。この笹川集落に足を運ぶと、レトロな案内看板が出迎えてくれます。ここでは、砂金山の名主を代々務めた金子勘三郎家や、砂金を採るために掘り崩され、赤色の山肌が露出している虎丸山などを見ることが出来ます。

天文11(1542)年に発見されたと伝わる鶴子銀山は、佐和田地区沢根と沢根五十里の山間部にあります。ここには、16世紀末に鉱山経営の中心になっていた代官屋敷跡が残っています。

この史跡入り口は、駐車場や案内看板も整備されています。看板をたよりに代官屋敷跡や鶴子荒町遺跡(集落跡)周辺などを散策してみたいかがでしょうか。

慶長元(1596)年に鉱脈が発見されたと伝わる相川金銀山は、相川地区市街地から東側の山間部にあります。この相川金銀山のシンボルといえば、人力で掘られた露頭掘り跡の「道遊の割戸」です。相川を訪れると、必ず目に付くのではないのでしょうか。

また、相川金銀山には、鉱山での採掘の様子がかかる絵巻が多く残されています。なかでも佐渡奉行所跡の勝場ガイダンス施設では、石磨を使用した選鉱作業が紹介されているほか、製錬・小判製造の様子がわかる絵巻を見ることが出来ます。



新潟県知事 花角 英世

世界遺産登録の実現を目指し、20年余りにわたり取り組みを続けてきた本県にとって、昨年末の国の文化審議会世界文化遺産部会の答申に続く、登録実現への大きな一歩であると受け止めております。

これまで数々のご指導・ご支援をいただいた関係省庁や国内外の専門家の方々、国・県・市の世界遺産登録推進議員連盟、登録推進県民会議の会員をはじめ、応援いただいた県内外の多くの皆さまに心より感謝申し上げます。

推薦後、登録の実現までには、イコモス(ユネスコの諮問機関)による現地調査、世界遺産委員会での審議などに対応していく必要がありますが、今後も佐渡市や多くの関係者の皆さまとより一層緊密な連携を図りながら、佐渡金銀山の価値について、国際的な理解が得られるよう、できる限りの取り組みを進めてまいります。

これまでの間、多くの方々からご支援をいただき、昨年末の国の文化審議会世界文化遺産部会では、「佐渡島の金山」が世界遺産にふさわしい文化遺産であるとの評価をいただいておりますので、このたびの決定には心から安堵しております。

これまでご指導とご支援をいただいた関係省庁の皆さま、新潟県、国内外の専門家の方々、国・県・市の世界遺産登録推進議員連盟、登録推進県民会議の会員、佐渡・新潟・首都圏の世界遺産にする会などの関連団体の皆さまをはじめ、世界遺産登録の実現を目指し、四半世紀にわたるさまざまな登録推進活動にご協力をいただいた県民・市民の皆さまに心より感謝申し上げます。

この後は、「佐渡島の金山」が世界的に貴重な文化遺産として評価されるとともに、次世代へその価値を継承し、「日本の誇り」として市民・県民の皆さま並びに全国の皆さまから愛されるよう、令和5年の世界遺産登録実現に向け全力で取り組んでまいります。



佐渡市長 渡辺 竜五

登録までの道のり

◆1997年(平成9年)
市民団体による世界遺産登録に向けた運動開始

◆2006年(平成18年)
佐渡市と新潟県が連携し世界遺産登録に向けた取り組みを開始

◆2010年(平成22年)
「金を中心とする佐渡鉱山の遺産群」の名称で、ユネスコ世界遺産暫定リストに記載

◆2015年(平成27年)
世界遺産推薦を目指し、国へ推薦書原案を提出

◆2016年(平成28年)
2度目の再挑戦

◆2017年(平成29年)
3度目の再挑戦

◆2018年(平成30年)
4度目の再挑戦
*この年から世界遺産推薦は、1国1候補に

◆2020年(令和2年)
新型コロナウイルス感染症の拡大により文化審議会での諮問取り止め

◆2021年(令和3年)3月
5度目の再挑戦

◆2021年12月28日
文化審議会国内推薦候補に選定

◆2022年(令和4年)1月28日
政府から推薦することを正式表明

◆2022年2月1日
ユネスコ世界遺産へ推薦